



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月13日

上場会社名 株式会社アスモ 上場取引所 東
 コード番号 2654 URL http://www.asmo1.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 尊
 問合せ先責任者 (役職名) 社長室 (氏名) 鹿嶋 良治 (TEL) 03-6911-0550
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	4,923	3.5	236	10.9	241	10.9	148	△12.3
30年3月期第1四半期	4,758	6.1	213	22.7	217	29.4	168	107.0

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 164百万円(1.5%) 30年3月期第1四半期 162百万円(407.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	10.56	—
30年3月期第1四半期	12.03	—

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	7,600	5,062	65.2
30年3月期	7,623	5,037	64.7

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 4,955百万円 30年3月期 4,930百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,730	1.1	551	4.8	569	8.2	360	0.7	25.68
通期	19,500	0.4	1,129	5.3	1,164	9.9	682	9.3	48.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	15,145,175株	30年3月期	15,145,175株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	1,124,420株	30年3月期	1,124,420株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	14,020,754株	30年3月期1Q	14,020,770株

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び実績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、非常に緩やかな回復基調でありました。

朝鮮半島非核化への端緒を開き、北東アジアの歴史の大きな変化が期待される歴史的な米朝首脳会談が開催される一方で、米国による高関税政策の発動に始まる中国、EU、カナダ等を巻き込んだ高関税政策の応酬が生じており、この異例な対外政策がもたらす世界貿易縮小への懸念もあり、先行きは正に予断を許さない世界情勢となっております。

当社グループでは、各事業のストロングポイントを的確に見極めた上でシナジー効果を最大限に発揮していくこと、また、国内だけでなくとどまらず積極的に海外にも進出し、人口減少時代を迎える日本において多角的な収益構造を構築し安定した成長を目指すことを目標としております。

今期においても各事業の強みを確実に伸ばす事で、全体として売上高・経常利益共に伸ばす事が出来ました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高4,923百万円（前年同四半期比3.5%増）、営業利益236百万円（前年同四半期比10.9%増）、経常利益241百万円（前年同四半期比10.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、148百万円（前年同四半期比12.3%減）となりました。

売上高の増加は、主に介護事業売上が増加したことによるものであります。営業利益、経常利益の増加は、売上の増加に加え、食肉販売事業における採算改善、介護事業における有料老人ホーム入居率の上昇や介護の利用者の増加等によります。売上高営業利益率も前年同四半期より0.3ポイント改善して4.8%となることが出来ました。

親会社株主に帰属する四半期純利益が減少しているのは、連結繰越欠損金の消化が順調に進み、繰延税金資産への新規計上が無くなったこと等による税金負担の対前年同四半期比増加によります。

今後におきましても、売上高の増加、売上高営業利益率の更なる改善に加え、グループの目標通り東南アジアを含む様々な国や地域に進出し、事業を成長させる事に邁進してまいります。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ会社の統制・管理、不動産賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉の輸出入、食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス) (株式会社アスモフードサービス首都圏) (株式会社アスモフードサービス東日本) (株式会社アスモフードサービス中日本) (株式会社アスモフードサービス西日本)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス) (株式会社アスモライフサービス)	訪問・居宅介護事業所の運営、有料老人ホームの運営	
ASMO CATERING (HK) 事業 (ASMO CATERING (HK) CO., LIMITED)	香港における外食店舗の運営	
その他	(サーバントラスト信託株式会社)	管理型信託商品の販売
	(アスモ少額短期保険株式会社)	少額短期保険商品の販売
	(ASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITED)	台湾における外食店舗の運営

① アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、物流費の上昇や海外のマーケットとの価格競争による物価上昇を余儀なくされ、依然として厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中、従来から販売しております収益力の高いメキシコ産チルド牛肉の安定した販売が続いております。価格・数量の安定を図る為、独自の契約方法を現地とダイレクトに締結することでさらに効率のよい商品を生産出来るよう心がけてまいりました。また通販事業においても魅力ある商品の提案と販売先の増大により、徐々に売上を伸ばしてきております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、835百万円（前年同四半期比5.3%増）、セグメント利益（営業利益）は20百万円（前年同四半期比81.7%増）となりました。

今後におきましては、大阪北部地震被災による影響が及んでくるものと思われませんが、現状の政策を維持し、メキシコ産チルド牛肉については引き続き安定的な商品の増産を図ってまいります。

さらに、SNSを利用した商品のプロモーションも視野に入れ、知名度のアップと商品力及び商品提案力で価格の優位性をアピールして顧客満足度を追求してまいります。

② アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、人件費の上昇を伴った人手不足など、非常に厳しい状況で推移する中、収益向上のために不採算受託施設の契約解除や、収益を見込める新規施設の受託を行ってまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,812百万円（前年同四半期比3.7%減）、セグメント利益（営業利益）は、136百万円（前年同四半期比6.1%減）となりました。

今後、猛暑により葉物野菜が高温障害を起こし、品質が悪くなることによる価格上昇が予想されます。一方で、収益向上のための不採算受託施設の契約解除や、収益を見込める新規施設の受託を積極的に行ってまいります。

今後におきましても食材の調達やメニュー開発、様々なイベント及び行事において、従来培った「食」のノウハウを活用することで、提供商品（給食）における付加価値を創出し、他社との差別化を図り、クオリティの向上に取り組んでまいります。

③ アスモ介護サービス事業

アスモ介護サービス事業におきましては、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所及び有料老人ホーム運営事業を営んでおり、当第1四半期連結累計期間につきましては、4月に介護保険法の改正による報酬見直しが行われ、介護報酬全体ではプラス改定となっておりますが、弊社の主力事業である訪問介護事業においては大幅なマイナス改定となりました。また、恒常的な人手不足に伴う人件費の上昇なども加わり、足元・先行きとも非常に厳しい状況で推移しております。

そのような状況の中、既存事業所での新規利用者の獲得と、機会損失をなくすべく介護職員の新規獲得と離職防止に注力することで利用者数を増やすことが出来ました。

これにより当第1四半期連結会計期間末現在、訪問介護事業所37事業所（前年同四半期末は37事業所）、居宅支援事業所13事業所（前年同四半期末は12事業所）となり、介護支援契約者は、2,019名（前年同四半期末は1,766名）。有料老人ホーム6施設（前年同四半期末は6施設）、入居者数は314名（前年同四半期末は165名）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,518百万円（前年同四半期比12.1%増）、セグメント利益（営業利益）は、138百万円（前年同四半期比34.5%増）と、増収増益となりました。

今後も利用者の獲得に努めていくとともに、介護人材育成に注力していくことで、より良い人材の確保と定着率向上に努め、介護サービスの質の向上を図ってまいります。

④ ASMO CATERING (HK) 事業

ASMO CATERING (HK) 事業におきましては、これまで当社の各業態の主な出店先であった香港の大型の駅前モールは、以前とは違い、日本から続々と新たなブランドが押し寄せる状況の中で、出店はおろか当社の収益を支えていた収益店舗においても撤退を迫られるという状況が続いたのが、ここ数年の苦戦の一番の原因でした。

他の物件に対応できる業態を持ち合わせていなかったのが、大型モール以外に進出できていなかった最大の要因ですが、4月17日、『和風食堂とら蔵』というラーメンや弁当、丼を主体とした低価格路線に切り替えた業態を九龍半島の長沙湾地区の路面立地に出店致しました。オープン以降予想を大幅に超える売上を確保できており好調に推移しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、585百万円（前年同四半期比5.9%増）、セグメント損失（営業損失）は、18百万円（前年同四半期はセグメント損失5百万円）と、増収減益となりました。

同業態は、前述の大型駅前モールとは違う下町の路面店であり、これまでの当社の顧客層とは全く違います。また、当社の食品工場を最大限に活用し低価格を実現しており、工場の稼働率を上げるという点においても今後大きく期待できる業態であります。

今後は現状を打破すべくこの業態の出店を積極的に進めてまいります。

⑤ その他の事業

a. サーバントラスト信託株式会社

その他セグメントに含めておりますサーバントラスト信託株式会社は、管理型信託事業を営んでおり、法人・個人向けの金銭管理信託（特定贈与信託、遺言代用信託を含む）及び不動産管理信託を主力とした信託事業を行っております。

超高齢化社会の到来により、高齢者の財産管理ニーズや資産承継ニーズが今以上に高まる中で『信託』の活用が今後更に高まっていくと予想されます。このような社会的ニーズを取り込み、本事業は今後も成長が期待できるものと考えております。

当第1四半期連結累計期間の売上におきましては、信託報酬23百万円（前年同四半期比減7.5%）、営業利益10百万円（前年同四半期比6.8%増）となりました。

引き続き、グループ主要事業である介護事業とのシナジー及び高齢者支援団体等への営業活動を中心に新規契約の獲得並びに売上増加に努めてまいります。

b. アスモ少額短期保険株式会社

その他セグメントに含めておりますアスモ少額短期保険株式会社は、少額短期保険事業を展開しており、生命保険商品3種類（生命定期保険、入院保障付生命定期保険、無選択型生命保険）及び損害保険商品2種類（高齢者施設入居者家財保険、介護サポート総合保険）を販売しております。

生命保険商品は経営コンサルティング会社、行政書士等による対面販売、インターネット・広告等による通信販売で販売しております。また、損害保険商品「転ばぬ先の杖」（高齢者施設入居者家財保険）は有料老人ホームを代理店化し、入居者にお勧めする販売方法及び、老人ホーム紹介会社が他社との差別化を目的として1年間サービスとして付保するスキームにて展開しております。

6月にはこれまで販売できなかったサービス付高齢者向け住宅の入居者向けに、新商品「てんとうむし」（介護サポート総合保険）の販売を開始致しました。この商品はサービス付高齢者向け住宅入居者のケガによる入院保障、施設及び第三者への賠償責任に備えるための保険で、同住宅の運営事業会社が代理店化し、入居者にお勧めしてまいります。

当第1四半期連結累計期間におきましては、収入保険料は79百万円となり、計画81百万円に対し98.2%の達成率となりました。第2四半期連結会計期間以降、新商品を起爆剤とし、グループ会社とのシナジー及びシニアマーケットの開拓により、健全な保険事業を行いつつ、新規契約を獲得し、収入保険料増加に務めてまいります。

c. ASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITED

その他セグメントに含めておりますASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITEDは、前連結会計年度より2店舗体制において、今後の事業展開に向けて、まずは内部強化を図ることに努めております。2店舗ともそごう百貨店内にあるお店なので、そごう百貨店とのコミュニケーションの強化も図ってまいります。

以上の結果、その他の事業における当第1四半期連結累計期間の売上高は、169百万円（前年同四半期比3.0%減）、セグメント利益（営業利益）は、3百万円（前年同四半期比261.2%増）と、減収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は7,600百万円となり、前連結会計年度末に比べ22百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が39百万円、繰延税金資産が73百万円減少し、有形固定資産が11百万円、差入保証金が22百万円、現金及び預金が38百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は2,538百万円となり、前連結会計年度末に比べ47百万円減少いたしました。これは主に季節変動により賞与引当金が111百万円、未払法人税等が85百万円減少し、短期借入金が50百万円、その他流動負債に含まれる未払消費税等が還付に伴い88百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は5,062百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が7百万円、為替換算調整勘定が15百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は65.2%（前連結会計年度末は64.7%）となりました。

受取手形及び売掛金の回収が順調で、有形固定資産や保証金の増加が限定的で、利益剰余金の増加が、現金及び預金の増加に反映しており、順調な増減であると認識しております。

また、9年前に発生した税務上の連結繰越欠損金を当第1四半期連結会計期間で使い切ることができ、繰延税金資産の減少につながっております。

資本の財源につきましては、当社グループの運転資金・設備投資につきましては、一部連結子会社で一時的な借入を行うことがあります。基本的には自己資金により充当しております。当第1四半期連結会計期間末の有利子負債残高は、短期借入金50百万円とリース債務72百万円であり、前連結会計年度末と比較して52百万円増加しております。

現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は3,511百万円であり、資金の流動性は十分に確保出来ております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年5月14日「平成30年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,472,856	3,511,498
受取手形及び売掛金	2,100,241	2,060,664
商品	302,328	303,453
貯蔵品	13,967	13,170
その他	386,471	414,909
貸倒引当金	△87,774	△89,623
流動資産合計	6,188,091	6,214,072
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	203,711	215,611
有形固定資産合計	203,711	215,611
無形固定資産		
のれん	14,897	9,931
その他	41,494	38,152
無形固定資産合計	56,392	48,083
投資その他の資産		
その他	1,490,234	1,438,508
貸倒引当金	△314,828	△315,338
投資その他の資産合計	1,175,405	1,123,170
固定資産合計	1,435,509	1,386,865
資産合計	7,623,600	7,600,937

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	599,984	587,428
短期借入金	—	50,000
未払金	722,706	772,216
未払法人税等	85,989	—
賞与引当金	231,058	119,639
その他	718,565	772,843
流動負債合計	2,358,305	2,302,127
固定負債		
退職給付に係る負債	175,647	183,199
その他	51,673	52,983
固定負債合計	227,320	236,183
負債合計	2,585,626	2,538,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
利益剰余金	2,559,223	2,567,023
自己株式	△42,459	△42,459
株主資本合計	4,840,036	4,847,836
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△16	53
為替換算調整勘定	94,892	110,220
退職給付に係る調整累計額	△4,139	△3,104
その他の包括利益累計額合計	90,736	107,169
非支配株主持分	107,200	107,620
純資産合計	5,037,974	5,062,626
負債純資産合計	7,623,600	7,600,937

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	4,758,700	4,923,132
売上原価	3,658,300	3,770,157
売上総利益	1,100,399	1,152,974
販売費及び一般管理費	886,762	916,130
営業利益	213,637	236,843
営業外収益		
受取利息	1,747	1,738
物品賃貸料収入	651	1,421
為替差益	—	1,506
その他	2,068	1,968
営業外収益合計	4,467	6,635
営業外費用		
支払利息	241	342
為替差損	288	—
貸倒引当金繰入額	△30	2,032
その他	284	37
営業外費用合計	784	2,411
経常利益	217,319	241,067
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除却損	90	—
特別損失合計	90	—
税金等調整前四半期純利益	217,229	241,067
法人税、住民税及び事業税	2,640	23,866
法人税等調整額	47,299	72,976
法人税等合計	49,939	96,843
四半期純利益	167,289	144,223
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,436	△3,783
親会社株主に帰属する四半期純利益	168,725	148,007

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	167,289	144,223
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	340	70
為替換算調整勘定	△3,607	19,531
退職給付に係る調整額	△1,566	1,034
その他の包括利益合計	△4,833	20,636
四半期包括利益	162,455	164,860
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	164,665	164,440
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,209	419

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					計
	アスモ 事業	アスモレ ーディング 事業	アスモフ ードサー ビス事 業	アスモ介 護サー ビス事 業	ASMO CATERING (HK)事業	
売上高						
外部顧客への売上高	1,188	793,687	1,882,067	1,354,344	552,972	4,584,259
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	12,315	40,660	—	—	52,976
計	1,188	806,003	1,922,728	1,354,344	552,972	4,637,236
セグメント利益又は損失(△)	△42,199	11,144	145,403	103,154	△5,003	212,499

(単位:千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	174,440	4,758,700	—	4,758,700
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	52,976	△52,976	—
計	174,440	4,811,677	△52,976	4,758,700
セグメント利益又は損失(△)	1,066	213,565	71	213,637

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	212,499
「その他」の区分の利益	1,066
セグメント間取引消去	71
四半期連結損益計算書の営業利益	213,637

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					計
	アスモ事業	アスモトレーディング事業	アスモフードサービス事業	アスモ介護サービス事業	ASMO CATERING (HK) 事業	
売上高						
外部顧客への売上高	1,188	835,986	1,812,619	1,518,794	585,325	4,753,913
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	16,186	59,181	—	—	75,368
計	1,188	852,173	1,871,800	1,518,794	585,325	4,829,281
セグメント利益又は損失(△)	△44,580	20,251	136,604	138,708	△18,221	232,763

(単位:千円)

	その他(注)	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
売上高				
外部顧客への売上高	169,218	4,923,132	—	4,923,132
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	75,368	△75,368	—
計	169,218	4,998,500	△75,368	4,923,132
セグメント利益又は損失(△)	3,851	236,615	228	236,843

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	232,763
「その他」の区分の利益	3,851
セグメント間取引消去	228
四半期連結損益計算書の営業利益	236,843

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。